



2006.7.14
第130号

「会津平野」の輝く峠より



会津教育事務所長

室井 君男

下り坂に差し掛かると突如として渺茫たる広大な湖が姿を現し、その水面全体が西峰に沈まんとしている浅い角度の陽光をいっぱい反射させ、緑色の輝きを発している。或る早月の日の夕刻、フロントガラスに飛び込んできた会津平野の壮大なパノラマである。

全ての田圃に水が張られ、平野全体が湖の如く輝いている。この硬質な輝きは、梅雨を過ぎる頃には緑一色に変化し、実りの秋には一面が黄金色に染まっ

ていくのであろうか。フロントガラスのスクリーン左端には大塚山が小さく映し出されている。「占事記」の「東方に遣わされた二人の将軍が太平洋側と日本海側から進み、東北地方南部の地で落ち合った」との伝えを思い浮かべ、二人の将軍が再びまみえた「会津」は、まさに、平野が光り輝く今の季節ではなかったのか、そんな勝手な想像に浸った。目の前に広がるこの豊かな大地、そして歴史と伝統を感じさせる壮大な光景、それは、嘗々として「会津の人材」を輩出してきたという自負をも感じさせる。

近年、教育改革のもと、各々が様々な実践がなされている。しかし、それらの創意ある実践は、幼・小・中・高を連接させ、「会津の人材」を育てるという点で真に有効に機能するものになっ

ていくのであろうか。「会津はひとつ」の言葉があるが「会津の教育もひとつ」を、これまで以上に幼・小・中・高の垣根を取りはらい、それぞれが一人の会津っ子の成長に必要な情報と将来の夢を共有し、連携と連続のある一貫した会津の教育を進めていくことが必要であると切に感じている。

目の前に広がる会津平野には稲の苗を育む水が満ち溢れている。会津の教育に携わる者が心をひとつにし、田圃を潤す水の如くその力を裨益させてこそ、会津平野の子ども達を実りの黄金色に染めていくことができるのであろう。

そんな思いをいだかせてくれた峠からの眺めであった。

編集 福島県教育庁 会津教育事務所
編集協力 小・中学校長会
発行 福島県市町村 教育委員会 支支
福島教育連 北耶両

平成十八年度 管理課重点事項

教職員の事故・学校事故防止については、

- 教職員のメンタルヘルス
- 教職員のメンタルヘルス
- ・互いに何でも相談し合える職場環境づくりを努めること。

一 教職員の事故防止

- 不祥事の絶無
- ・ 勤務倫理委員会を機能させ、教職員の危機管理意識の高揚を図るとともに、管理職自身が積極的に関わること。
- ・ チェックシートを活用し、日頃の自分の言動、考え方等を振り返ることにより、不祥事防止に対する当事者意識を高めるように努めること。

二 学校事故の防止

- 学校火災・盗難事故の防止
- ・ 校舎内外の整理整頓に努め、校舎周辺の可燃物の撤去を徹底すること。
- ・ 会計事務は適正に執行し、現金は校内に置かないこと。
- ・ 校舎の施錠及び鍵の保管を適切に行うこと。
- 施設設備の安全管理
- ・ 防火設備等の誤作動時の復旧の方法等を全教職員に周知すること。
- ・ 避難訓練等を利用し、防火シャッター等の危険について児童生徒に認識させること。
- ・ 学校プールの管理運営については、薬品の安全管理を含め、常に細心の注意を払い、事故の未然防止に努めること。

三 負傷事故防止

- ・ 自分の体力を過信せず、適度な運動を心がけること。

生涯
学習課
より

『子どもたちの豊かな体験を求めて』

～支援センターを核とした学社連携の取組み～

(中略)「コーディネーターとして、学校の先生方の思いをつなぎ、地域の方々の思いをつなぎ、そしてボランティアの方々の思いをつないでいるうちに、パッチワークの絵柄のようにそれぞれの思いが繋がっていく。お互いが認め合い、協力し合える学校や地域にすることが自分たちの望みです。」

これは、ある支援センターでコーディネーターをされている方の言葉です。

現在、青少年の非行や引きこもりなどの社会的な課題や人と人とのつながりの希薄さなど、家庭教育力や地域教育力の低下が叫ばれており、子どもたちに様々な体験活動やボランティア活動を通して、豊かな人間性や社会性を地域ぐるみでくんでいこうという気運が高まっております。

1 学習支援ボランティアの活躍

昨年度、会津域内では170名の方が学習支援ボランティアに登録し、実際に各学校での学習や生活の支援や、稲や野菜栽培のお手伝い、放課後の子ども教室の指導、本の読み聞かせや民話語りなど、様々な支援をしていただきました。派遣件数は1,389件、支援を受けた子どもたちは延べ33,000名にもなります。地域の方々やその道の専門家と一緒に世代を超え“本物”の体験をしている子どもたちの目は驚きや感動で輝いていました。

2 支援センターの機能を生かして

今年度も会津域内13市町村全てに、子どもたちの豊かな学びをサポートする「支援センター」、そして、小・中・高校には、校内体験活動等推進委員会が設置され、様々な活動を展開しています。

その実践例として、先日、体験活動等担当者研修会の折に、猪苗代町「いなわしろどきどき体験センター」の実践をコーディネーターの佐藤陽子さんに発表していただきました。



「私たちのセンターは『猪苗代っ子を地域みんなで育てよう』というスローガンのもと、各学校の体験活動やボランティア活動をサポートしています。ボランティアに登録していただいた方々の個人カードをまとめ、『人材バンクカード』の冊子にして町内の各学校に配付しています。先生方には授業を計画する際に役立てていただいています。また、学校向けに『授業までのステップ』という体験センター利用の手引きも作成しています。それに加え、ホームページ等で事業内容や活動の様子などを町民に積極的に公開しています。今後、学校と地域をつなぐ役割を全力で果たしていきたいと思います。」と力強く語ってくれました。

3 地域が輝く子どもの居場所づくり事業

今年度も域内において9市町村22ヶ所で「こども教室」が実施され、放課後、地域の方々とは様々な体験活動をしています。子どもたちは地域の方との交流を通して技術や知識だけでなく、関わってくれる人の豊かな人間性も学んでいる



ようです。ボランティアでかかわっている人たちからは「おらたちの方が、子どもからいっぺー教えらっちっつお」という声をたくさん聞きます。子どもたちとかかわる多くの方の豊かな学びの輪が広がっているのを嬉しく思います。

4 学社連携・融合への取組みを!

現在、地域の子どもの健全育成や安全の確保など、大きな社会的な課題になっています。地域の果たす役割、支援センターの果たす役割、学校の果たす役割を明確にしながら、各市町村の支援センターを中核にして、さらに学校と公民館や社会教育施設等との連携・融合の絆を深めてほしいと願っています。子どもたちの豊かな体験のために、そして、かかわる人たちの思いをつなぐために!



心に残る人々

湯川村教育委員会教育長
鈴木清二

憧れの教職の第一歩を踏み出したのは、30余年前、南会津郡の縮岩小宮里分校である。その初赴任前夜、就職を祝い駆け付けてくれた客人の一人に、教育界の大先輩でもあるT氏がおられた。

種々の教示や激励を受けたが、「先生として教壇に立った時、子どもたちの目が輝かないようでは駄目だぞ」と説諭されたことを今尚、鮮明に覚えている。そして、激励の言葉を添え頂いた本が、斎藤喜博著『可能性に生きる』『授業入門』と石川達三著『人間の壁』であった。これ

らの本には甚だしく感銘し、暫くの間繰返し読み耽ったことを思い出す。特に“可能性に生きる”という言葉は、当時新米教師の私の心の扉を大きく開き、爾後万般に亘り新鮮に息吹き続け、定年に至るまで座右の銘の一つに掲げられることとなった。

その後折に触れて貴重な教職体験談も頂き、何年か経って新たな教職の立場に就くに至った時には、吉川英治の“我以外皆師也”の色紙を頂戴した。常に教師として、基本の姿勢に立ち返ることを大事にせよとの温かい励ましであった。

今に過ぎ去りし日々を振り返る時、教職の支えでもあり生き方の支えともなっていた一つは、正に可能性を信じて前への歩みであったと言える。私にとって出会った人は皆心に残る有難い方々であるが、T氏はその中の大きな人物である。

地域に学ぶ

整備が進む史跡

「慧日寺跡」

磐梯町教育委員会

磐梯町の史跡慧日寺跡では、20年来に及ぶ発掘調査の成果をもとにして、平成15年度から本格的な史跡整備を進めている。徳一開基の寺としての歴史的背景を考慮し、創建当初の伽藍を対象とした整備を図っており、これまで講堂・食堂などの平面表示が完了している。昨年度からは「金堂」の復元工事に着手しているが、国指定史跡の寺院跡において全国初となる中心建物の復元は、広く県内外からの注目を集めている。

建設にあたっては、発掘調査の成果のほかに、気候風土を考慮して古建築史の視点からも検討を重ね、挿図のような建物を復元した。正面七間、奥行き四間、基壇外装に安山岩の化粧石を廻らした仏堂は、会津地方に本格的な寺院建築をもたらした徳一の功績を目の当たりにすることができ、さらに「金堂」の正面から見ついている石敷き広場や中門跡も合わせたその壮観な景観は、奈良の諸大寺にも通ずる技法が指摘されている。

工事は、平成20年3月に竣工の予定であるが、町では逐次建設経過の見学会なども開催していく予定である。また、金堂竣工後も引き続いて整備工事を継続していく計画である。

現在、こうした史跡整備は、幼・小・中ともに総合的な学習の時間等で活用されており、今後も大いに期待される場所である。



復元金堂パース図

私の抱負

海外で働くこと



喜多方市立第二中学校
校長 桒渡 洋

常夏のマレーシアから帰国して三ヶ月あまり、体調も元に戻り一安心しています。

日本人学校の特徴は、第一に私立学校であることです。したがって、校長は財政面の切り盛りにも大いに関わることとなります。また、日本人職員はもちろん、現地職員や地域との折衝など待ったなしで対応する必要があります。何でもすぐに当たってみることで、自分の考えを持つことなど、学んだというより、その種の場面に次から次へと遭遇したという方が適切でしょうか。だから、正直どれだけ身に付いたか自分でもよくわからないところがあります。

ともかく、私にとって海外勤務はかけがえのない画期的な出来事でした。皆様方に深く感謝いたします。

32名の輝く瞳のために



柳津町立西山小学校
教頭 伊藤 博子

「まず、学校をよく知ってください。先生方をよく知ってください。地域を、それから子どもたちをよく知ってください。」

新任教頭の辞令をいただいた日の教育長さんのお言葉です。子どもたちが楽しく安全に学校生活を送れるようにしなければならぬと身が引き締まる思いでした。それから、日々勉強の日です。今まで当たり前のように流れていた日常が、目に見えない多くの人たちの努力に支えられていたことに気付きました。自分もまた、多くの人々に支えられていることに感謝しつつ、西山小学校の子どもたちが、元氣よく、どんな時もまっさらと瞳を輝かせて学校生活を送れるよう努めていきたいと思っています。

新採用教員として3ヶ月がたって



会津若松市立第二中学校
教諭 井上 夏美

私が教員となって、早くも三ヶ月が経ちました。何もわからないまま着任した四月から今まで、ただ毎日が精一杯で、思うようにいかないことも山のようにあります。しかし、一生懸命に頑張ろうとする子どもたちの気持ちに込めるためにも、今の私自身を見つめ、私に足りないものを確認し、それを補う毎日です。

そのような中、子どもたちは、私に様々なことを教えてくれます。四月当初は見えなかった子どもからのサインも、次第に見えるようになってきました。しかし、まだまだ子どもたちの気持ちを察してやれないものかしきがあります。自分が生徒だった時のことを思い出し、一日も早く「生徒の気持ちかわかる教師」になるのが、私の今の目標です。

これからも、子どもたちのために日々、研鑽を積んでいきたいと思っています。

作品と指導

習字

『感動』



会津坂下町立第一中学校
1年 小椋山 昇衛

用具を大切に使うこと、姿勢を正して書くことを約束して練習しています。小学校で学習した楷書の基本的な筆使いに重点を置き、反りや払いなどの部分練習もしました。始筆、送筆、終筆とも大変見事で、堂々とした作品です。

指導者 渡邊 さとみ

工作

『このさまハック』



喜多方市立堂島小学校
1年 左雨 大典

昔にタイムスリップして、殿様の気分を味わいたかったという願いを大切に声かけをしました。

持つところは、ちょんまげ。使いたかった星のボタンは、威厳を表すために目にしました。工夫いっぱい作品になりました。

指導者 佐川 由喜子

平面デザイン

『猪苗代駅』



猪苗代町立千里小学校
6年 小林 諒

猪苗代駅の雰囲気をとらえさせるため、まず全景をつかませてから自分が描きたいことの中心を決めさせました。

遠近の組み合わせを考えさせ、彩色は原色を使わず色を作って丁寧に塗るようにさせました。よく表現されています。

指導者 日出山 哲夫